

# 創立30周年を迎えて

創立30周年記念事業実行委員会委員長・PTA会長

片倉 朋和

宮城県立迫支援学校創立30周年、誠におめでとうございます。

平成2年に独立開校し、これまでにたくさんの子供たちが、この学び舎から地域・社会へと羽ばたいて行きました。

現在、児童生徒合わせて80名と、開校当時の約2倍の人数となりました。毎日、校舎には明るく元気な子供たちの声が響きわたっています。

私たちの学校は、市街地から程よい距離にあり、広い敷地の中に、緑に囲まれた平屋の校舎と、広い校庭などがあり、県内の支援学校の中でも良い環境の中にあり、ここで小学部、中学部、高等部のみんなが楽しく学んでいます。

今、私の息子は中学部3年に在籍しています。入学にあたり、地元の小学校にするか支援学校にするか悩み、住所地から近い数か所の学校を見学にいきました。その中で、迫支援学校は校舎に入った瞬間から、この学校は息子の成長に力を貸してくれると！と思いました。「発達の段階や能力を特別視するのではなく、受け入れ共感し、そして当たり前のごととして捉え接してくれる」そんな雰囲気を感じました。毎日、元気に笑顔で学校の準備をして家を出ていく息子の姿を見ると、子供の将来を第一に考えて選択した事は間違いではなかったと思っています。

毎日、スクールバスでの登下校、運転手さんと添乗員さんに、きちんと挨拶をして乗り込む姿は、入学前には考えられないことでした。子供たち一人ひとりに合った学習や生活習慣の習得など、きめ細かな指導・支援をして頂き、少しずつ成長していくのを実感しています。

学校行事においても、子供たちを第一に考えた企画が盛りだくさんで、どの学部においても、校外での学習を積極的に取り入れ、地域の方々、そして地元のお店の支援と協力を得ながら、子供たちにたくさんの経験をさせて頂いています。本当にありがたいことだと思っています。また、在校生だけではなく、同窓生の皆さんにも温かく声をかけ、見守って頂けていることは、子供たちにとって大きな励みになっています。教育の面だけではなく、医療の面においても、校医の先生方のご配慮により安心して診て頂ける体制が整っています。

迫支援学校が行っているこのようなことは、これまでの30年間の積み重ねがあつてのことだと思います。今の迫支援学校を築き上げて頂いた歴代の校長先生をはじめとする全ての先生方、PTAの会員の皆様に感謝申し上げます。

この30周年を記念して、ここに記念誌「ゆめ花となりⅢ」を刊行することができました。今回の記念誌は、20周年以降の10年間の歩みが掲載されております。この10年間を振り返り、その時々のことを思い出し、話題にして頂ければ幸いです。

最後に、卒業する子供たちが、それぞれの障がいと向き合いながら人生を歩んで行く上で、支援学校の役割は今後益々、大きくなると思います。迫支援学校が40周年、50周年に向けてさらなる発展をしますことをご祈念申し上げます。